

第3回 日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会

令和5年(2023年)1月24日(月)15時～

日野町役場 防災センター研修室

~~~~~

#### ○子ども支援課長

ただいまから第3回日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会を始めさせていただきます。平日の大変お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

本日3名の方から欠席の連絡をいただいておりますので、報告させていただきます。

それでは、要綱に従いまして委員長の進行でよろしく願いいたします。

~~~~~

○委員長

皆さん、こんにちは。よろしく願いいたします。

本日3回目ということで、公民館ワークショップの報告をさせていただきます。

つい先日、保育者向けのワークショップが全て終了したばかりで、私もいろいろな衝撃を受けていて、取りまとめには少し時間がかかると思います。

本日は公民館ワークショップの結果を報告させていただきたいと思います。

公民館によっては参加者数が多かったところや、また、参加者の少ないところは情報量が少なかったということではありませんが、まだまだ報告しきれないところもあり、まず概要を皆さんに報告させていただきます。

委員の中からもご参加いただき、ありがとうございました。参加された中でここだけは懇話会に伝えておいた方がよいというのがありましたらご発言いただきたいと思います。

あと、若者会議向けと発達に支援が必要なお子さんの保護者向けのワークショップが宿題として残っています。何とか年度内には実施したいと思っております。これは委員から出た意見でもありましたので、進捗次第、報告させていただきます。

それでは公民館ワークショップの概要として、そもそもどのような形で日野町の幼児教育保育の検証を進めているのか、なぜ懇話会を設置して、そのもとでワーキングという形をとっているのかという話をさせていただきました。

それから、実際に保護者が子育てをする中で、子どもをどこに連れて行っているのかなど、保護者向けワークショップの結果について報告をさせていただきました。

ここまでで約15分、そのあと1時間程かけて「子育て環境の未来を探る」と題してワークショップを進めていきました。

ワークショップの流れですが、初めに、自己紹介をしていただき、そのうえで「子どもにとって大切だと思うところを教えてください」、「それをふまえて集落内や日野町内をどうしていったらよいと思いますか」というテーマで進行していきました。

ただ、最初のテーマは範囲が広いので分割し、①自分が小さい頃に遊んだところ、②子どもを遊ばせたいところ、③子どもに出会ってほしいもの、④町内の子どもたち、孫や親戚の子どもたちと日頃どう付き合っているのかという4点に分けました。

「子どもにとって大切だと思うところを教えてください」の中には、ご自身が子ども時代に遊んだところもありますし、日野町に移住された方にはお答えできるところだけ答えていただいたという形になります。

まずは「幼稚園・保育所」を真ん中にして、特徴として昔からの「地藏盆」や「迎え火・送り火」という行事関係があります。それから「寺・神社」「田畑・溝」「牧場・牛舎」「溜池」といった農業に関わるもの。それから「川での魚つかみ」などが出ています。

もちろん「店舗・商業施設」をあげた方もおられますし、「生き物と触れ合える施設」として具体的にはブルーメの丘や畜産技術センターもありました。特徴的なことは地域の行事、自然関係、農業に関わるものと思います。

次に「近所の子どもたちとこれからどう関わりたいですか」という問いには多種多様な話が出てきました。まず、「集会場」「図書館」「公民館」といったところですが、公民館に関しては、公民館事業にかなり力を入れておられる地区が多く、ワークショップの参加者に公民館で子ども向けのイベントを運営されている方もおられましたので、公民館で何かをするとか、一部の集落では集会所を活用して子ども向けのイベントをされているところもありました。それとは別に図書館を活用していきたいとか、今の子どもは本を読まないからという意見から、図書館も出てきていました。

「自然を生かす」というところは、裏山であつたり農作業であつたり、いろいろとありますが、まとめていうと、自然絡みのことが出てくる。

「表裏」については、地域の子どもの向けの行事でなくなったものがあると伺いました。

子ども向け行事はあつた方がいいという意見もありますが、その反面、運営の負担が大きい。このことで子育て層が移住しにくい条件になっているのではないかと考えました。また、公園も表裏の意見があり、ただあればいいのではなく、やはり遊具が大切というご意見や、そもそも子どもが遊んでいないということ。それはハードが原因ということではないようでした。

子ども目線で必要なものという視点の問題がありますが、一部の保護者からは子育てを人任せにしているのではないかというご意見もありました。

それから、「体験」です。「自然を生かす」とも繋がりますが、いろいろな体験をさせてあげたいという話の側面、ケガさせたらどうしようか。今の子どもたちに、山や川へ行っで遊んで来いと言えますかという、「言えない」という方が非常に多かったです。

一方で多少ケガをしてでも、大人になれば誰も危険を回避してくれないから、子ども自身が危険回避の能力を持った方がいいという意見もありましたが、じゃあ本当にできるかという、「体験」と「安全」の表裏の話しで非常に難しいところです。

あと、「地域で育てる」は、子どもの人数がある程度ないと集団で遊ぶことができない

い、集落によっては子どもの姿を全く見ないというところもあります。家の中や学校など建物の中にいるので、顔見知りになれないというところがあります。まずは顔見知りになり、様々な年代の方と交流ができ、接点を持つことで、「地域で育てる」というところに繋がるのですが、今はそういう世の中になっていないという側面もあり、気持ちはありつつも、どうするのかという問題があります。

「住みやすさ」は、子育て層の方が転入できるかどうかという問題があります。

土地の利用規制で実家の隣に家が建てられないとか、空き家が全然ないなど、子どもの人数が問題になっているのに、転入しにくいという話と、子どもが日野で家を建てたいと言った時に、こんな田舎に帰ってくるなと言ったという話をいくつか聞かされました。

シニアの方々は、自然空間や寺社、田畑で遊んできたけれど、自分の子どもには一切させなかった。それはなぜかと言ったら、もう遊べるような環境になっていなかったのも、安全なところで遊ばせていた。じゃあ、その子どもたちが大人になった時に、本当にこの集落に帰って来たいと思うだろうか、故郷を大切に思うだろうかという意見がこの中には含まれています。

「交通の便」では、バスや電車が便利になったらいいという話もありますが、子どもだけで友だちの家に遊びに行ったり、図書館へ行ったりすることができたら、もっと広がるのではないかと。子どもが友達とコミュニケーションをとるために、誰かが連れていかなければならない。それは外灯を増やすとか、バスが多くなるということだけではなく、いかに移動させるかという話だと思います。

「情報」もいくつか出ていて、保護者向けワークショップのところで、子どもを連れていく場所がたくさん出てきましたが、その情報をもっと共有されたら、日野の中で子育てできる場所がわかりやすくなるのではないかと指摘もいただきました。

最後、「選択・リカバリーできる」あたりの話ですけれども、登園・登校でつまづく子どもが増えている中で、選択肢が全くないと、日野町の中で子育てがしにくい状況になる。

単一の集団しかなければ他の集団に移るという話にもならないので、子どもの視点から見た時に選択ができ、失敗してもどこかに居場所があるという形にすることが大事ではないかという話が出ておりました。

~~~~~

## ○委員長

以上が結果で、ここから先は私自身でどういったことが見えたかという話を「保護者向けワークショップの結果」から振り返りたいと思います。

保護者向けワークショップでは、子どもを百均に連れていったり、松尾公園へ行ったり、図書館へ行ったり、ショッピングモールに行っていますという話がありましたが、よくよく見てみると、今回の公民館ワークショップで出てきたものが、もともと入っていないことに気づいたのです。それは何かというと、地域行事や自然関係、農業に関わる部分のごっそり抜けているのです。これがなくなるということは何故なのかというと、子どもが

行ける居場所が減っているのではないか。特に、地藏盆は子どもだけでやっていたそうですが、今では大人が仕切っているのか、かつてのあり方とは違うという意見がありました。

例えば「川」です。私は日野町内で川遊びができるところはないと思っていましたが、ある地区の公民館ワークショップではあったのです。町外から遊びに来た人が入って遊んでいますよというところがありました。保護者向けワークショップには土山とか永源寺へ行かれています。保護者向けワークショップには土山とか永源寺へ行かれていた方がほとんどという状態です。

この辺が欠落しているというのがワークショップをしている中で分かりましたし、別になくそうと思ってなくしたのではなくて、農作業などのやり方が随分変わってきたことや祭事を行うには沢山の人が必要ですので、なくなったことが悪いのではなく、現状認識として農作業関係で田畑や溝などに遊びに行っていたことを伺いましたが、今はさせていない。もちろん今も子どもたちが入れるようにしていますという方もおられました。大方は減ってきているということで、それは何故だろうかと私は思いました。

「日野町と言えば自然」と言いながら、実際にはなかなか触れ合えない。それは昔と比べて農業のやり方が変わっているのか、よほど意識的にやらない限り、そこは難しい。

あと、川に入れる場所があったとしても、同じ公民館地区でも知らない方もおられたりしたので、「情報」の問題もあります。そこをどうするか。「自然と触れ合える場所」があるかどうか。

「交流・多世代・顔見知り」をつくっていくには、まちを歩いている時に子どもがいない。どこで遊んでいるのかわからないという意見がありました。多世代交流などを実現するために、果たして地域に居場所を作っていくかどうかという課題があります。

そして、これがすごく難しいと思いますが、そもそも子育て層が住めなかったら、子どもは増えません。意欲的にされている地域もありますが、ここが困難になっているところもあるので、子育て層が少ないという点がありますし、そもそも戻って来たいくなるような幼少体験を積んでいるのか。端的に言うと「交通の便」が良ければいいのかという話ですが、そうではなくて、行きたい場所があるから移動する手段が必要となります。行きたい場所がなければ別に移動手段があってもなくても変わらないと思うのです。どこかに移動したい時に、子どもだけでどう移動できるのか、もしくはそれを手助けしてあげられるのか。そういったところまで含めて、日野町内をどう人々が移動するのか。九州の大学などへ行きますと、最寄りのJRの駅まで車で3時間かかることがざらにあります。そこから考えたら、日野町は全域を移動してもそこまで時間はかかりませんので、そういう意味では道路整備はされていると思います。

このあと皆さんにお伺いしたいのは、今回の公民館ワークショップを見てきた結果、一番重要なのは、「居場所」をどう考えていくかではないか。無理のない範囲でどう考えていくのが課題ではないかと思いました。

最後にまとめますと、「居場所・子ども」の視点からいうと、「かつてあったものが、現在なくなったもの」ということがあります。ただこれは、負担感と表裏一体のものではあ

ります。「これからつくれる居場所」をどう考えていくのか、子どもの状況が多様な状態の中で、どれだけ行ける場所を確保してあげられるか。

子どもたちだけが増えるということなく、子どもが増えるということは保護者も増えているということなので、それを考えると「親子が住める場所」、「帰って来たいと思える場所」を考えなければならないというのが私の所感です。

それでは、ワークショップに参加された方で何か抜けているところや、私は「居場所」をどう確保していくのかということが大きな課題であると思うのですが、それについてご意見等あればお願いしたいと思います。

## ○委員

ワークショップに参加させてもらって、本当によかったと思います。

「居場所」ということですが、行事などが少なくなっていると感じています。

私は地区で文化祭や町民運動会など実行委員として運営をしています。今年は実行委員長をさせてもらい、続けていくことは結構大変だと思いました。マンパワーが要りますし、準備にも休みの日に出たり、金曜日の夜8時から9時過ぎまで会議をしたり、行事の前には準備で集まったりして、なかなか続けていくことは難しく、止めることは簡単ですが、一度止めてしまうと再開するのは更に大変なので、我慢しているところがあるのかなと思います。

それでも、開催すれば喜んでくださる方もおられますし、今年は久しぶりにブルーメの丘で開催しましたが、子どもさんも多く来てくださり、楽しんでもらえたかなと感じています。そういうことは大事かなと思います。

## ○委員

私もワークショップに参加させていただきました。ワークショップに同世代の方を何人かお誘いしましたが、お母さんは平日の夜はなかなか出にくいので両親のどちらかが出てくる。日野公民館には託児所がありましたが、他の公民館にはなかったもので、話し合いとか座談会をするのに来られない状況が非常に多いと感じています。

自営の方もおられますが、会社員として他市町へ働きに行き帰ってきてから参加される中で、公民館の会議等の設定が非常に難しくなっていて、断りやすい状況があると思います。

あとは、子ども会、催事、地蔵盆、春祭り、お正月のお参りなど、なぜやっているのかということや地元の方や移住して来られた方が、いろいろなところで交流していく中で、お祭りはなぜ始まったのかということや私は意識して話をしています。

何をやるのにも面倒だとは思いますが、子どものためだけではなく、大人も子どもを媒介にして交流ができる、楽しめるというのが子ども会や子ども団体のよいところだと思います。役員も何故やっているのかわからずに、やらないといけないということが先に立ってしまっている。コロナ禍でイベントが中止になることも増え、役員さんの一言で中止になると、やりたいと思っている人がいてもできない。コロナとは共存していかないとい

けないし、今後地域づくりをしていくことが非常に難しい時代になるので、お祭りなどを有効活用して移住してこられた方が参加しやすくしなければ物理的に出会うことがないので、地域としても希薄になっていくと思います。

子どもの居場所もですけど、大人も居場所があればなとも思います。

#### ○委員長

資料で書いた理由もそうですが、「親が集える場所がない」というところは問題だなとも思います。

#### ○委員

幼稚園のワークショップに参加させてもらいました。行事が少なくなっているなと感じています。確かに続けていく負担が大きすぎて、みんな止める理由を探しているのかなと思うと、どこか寂しく思います。

周りの保護者さんを見ていると、地域とつながって子どもを育てていきたいと思っておられる保護者さんがどこまでおられるかなと感じます。

私自身は地域で育ててほしいと思い色々なイベントに参加していますが、保護者さんによると、好き寄りで集まって、好き寄りで楽しんで、時々テーマパークに行くと、それでいいよと終わっているご家庭も多いのかなと思います。地域の行事や幼稚園・学校の行事で他の人とつながれてよかったなという経験を、子どももですが保護者さんも感じて、積極的に少しでも繋がりたい、協力できることからしたいなと思える気持ちが増えるといいなと思います。

#### ○委員長

思いとしては、地域で育てた方がよくなりそうだよねという話がありますが、私は地域でやればいいなというふうに言い切ってしまうのは危ないのかなという気もしていて、すごく大事なところを言っていたと思います。ありがとうございます。

#### ○委員

保育園のワークショップに参加させていただきました。公民館のワークショップで意見の出た、地域の行事、私が住んでいる集落ではまだ続いてはいますが、ご意見のとおり大人主導になっています。本来、子どもたちだけで、子どもたちが活躍してくれる行事は、子どもに参加してもらっただけの行事となり、子どもには楽しい思い出となりますが、やはり大人の負担が大きいです。

集落の行事を支えてくださっているのは60歳から70歳代の高齢の方々に、これから80代になり引退されていく方が増えると、今の子育て世代がそれを引き継いでいけるかというと、難しいと感じています。

その集落だけで守っていくのは難しいので、もっと大きな地域で一緒にやっつけられるような形をとればと思います。集落によって祭りも違いもありますし、全体が話し合う機会が少ないので、皆さんがご意見を出し合えるような環境をつくるか、懇話会が出た意見を皆さんに見ていただけるような機会が持てたらいいなと感じました。

ここだけにとどめておくのは勿体ないと思うので、もっといろんな方に気軽に見ていただけるようになればいいなと思いました。

#### ○委員長

実はスタッフ中からも、このワークショップの結果を町民の方々に見ていただく機会をつくってもいいのではないかという意見があります。

#### ○委員

ホームページなどもあまり活用できてないように思うので、どんな方でも閲覧できるようになればと思います。

#### ○委員長

ありがとうございます。

#### ○委員

昔は兄弟がたくさんいて、兄弟の誰かを誰かが見るといった年齢が離れていても一緒に遊べる環境がありました。地域で行事をして、小さい子から大きな子まで集まるとか、場所にしてもみんながいろんな遊びをしているという感覚がありましたが、今は上の子は遊べるけど、下の子にはその場所では遊ばせられないとか、小さな子ども向けではあるけど、大きな子向けの何かがあれば兄弟で行けるだろうとか、兄弟で年が離れていると、上の子は連れていけるけど、下の子は連れて行けないなど考え方が以前とは違うかなと思います。

松尾公園にしても小さい子向けの遊具はあるけれども、大きな子の遊具はないから、大きな子を連れていったら何をして遊ばせたらよいかと、色々な年の子が1つのことをして遊ぶということが難しいと感じています。

公民館ワークショップに参加させていただいて、普通に遊ぶ子どもたちのことを考えていましたが、参加者の中には支援が必要な子どもさんの保護者さんが来られていて、その子たちが家でなくて違う場所に出られる居場所というのが日野町にはなくて、そういう子どもたち、そういう子どもさんをお持ちの保護者さんが行ける場所、学校に行けなくて家にばかり居るけど、他に行ける場所があるといいなという話をされていたので、そういう視点はとても大事だなと感じました。

#### ○委員長

ありがとうございます。私自身、学校に行けていなかったのも、ワークショップをしなから、課題と思いました。

あと、みんなで1つのことがしにくくなるということは課題として私も受け止めています。年齢が分かっていたらここに行きます、この年齢だったらここに行きますという話もあるし、行事にしても年齢的につまらないから行かないという話が出ていました。

包括的なものもいいという意見が公民館ワークショップでは出ているのですが、個々人の考え方、好き寄りの方が気楽だという話、その辺をどのように考えていくのかということがまだ全然見えてないです。

## ○委員

保護者向けワークショップを自分の保育園の中で拝聴させてもらった時に、保護者同士がいろいろなお話しをできるのかなと心配していましたが、ファシリテーターの方がいてくださり、議題を決めて話を進めていくといろいろな意見が出て、すぐに時間が経ってしまったという印象でした。

あとで保護者の方に感想を聞かせてもらおうと、普段話はしているけど、今日みたいに思っていることを思いきりしゃべれるチャンスがなかったので、とっても楽しかったという感想があり、少ない人数でしたが、来られた保護者さんはそういう経験をされて、よかったと思いました。

先ほど話に出てきたいろいろな行事で 60 代、70 代の方々が集落で自然にやっていた行事というのは、「みんながしてこられたから、せなあかんもん」と思いされてきた時代なので、「面倒くさいなあ」と思いますが、やった後に「ああよかった」という実感があって続けられたのかなと、皆さんの話を聞いて思い返していたところです。

私は自分の気持ちの持ち方として、面倒くさいことにこそ意義があると思っています。そのことを若い人たちにどう伝えたらいいのかなと思っているのが今の私です。

子どもたちが小さい時に一人ずつ面倒をみるのは大変ですよ。自分ができないことをやろうとするけど、やらせたら時間がかかるし、でもやらさないと体験できないから、じっと待っているのは面倒だなと思いますよね。

でも、その面倒をクリアすると、子どもの「できたよ！」という顔が見られたりします。

保護者会で話している中でも保護者自身が、自分がこうしたいという意見を実現できた時には「よかったです！」と言ってくださるので、私はそこかなと思っています。

どういう仕掛けをするにしても、例えば自分がこうしたいと思うことをやって、できたという実感をどこかで持てる場所があればいいなと思います。

先ほど話が出ていましたが、支援が必要な子も保育園にはいるので一緒かなと思っています。そこを自分でやってみる、できる、という場所が必要かなと思います。

それと、前から思っていたのですが、農作業を機械でしないで手作業ですると色々なことが勉強できるし、人との関わりも勉強できるので、空いている田を高齢者と子どもたちが一緒につくるのが、私の理想です。高齢者の居場所づくりと子どもたちの体験が一緒にできる、それをしてくれる人がいないかなと思っています、そこにうちの保育園の子ができたらいいなというのが私の願望です。

## ○委員長

行ける場所があったら連れていきたい保護者さんもおられると思うのですが、その行ける場所をどうやってつくるのかということが悩ましいと思います。

間違いなく「行ける場所があったら連れて行く」というのは保育者ワークショップでも言われていました。遠足でこういう場所に行きたいとか、特に園の場所によっては行ける場所がすごく限られますし、先生が足りなくて連れていけないということが多発してい

るようでしたので、そこは課題の1つだと思います。

## ○委員

私は、日野町の山手に住んでいまして、今でこそ子どもたちが少し増えてきましたが、今の27歳のぐらいの若者を最後に、次に生まれた子は10歳です。様々な理由があり、十数年間、子どもがいなかったのが、少しずつ戻り始めて、現在、小学校5年生くらいからゼロ歳まで10人余りに増えてきました。

その中で、一旦なくなった子ども会をまた始めようということになり、大人だけでやっていた地蔵盆でしたが、子どもたちが主体でできるように大人たちが手伝い始めています。子どもたちが生まれて、子どもたちができる行事が始められるようになり、そこに保護者が集まり、自分たちが楽しかったことを、子どもたちのためにもう一度しないといけないよねと言ってやり始めています。

それがコロナ前くらいから始まり、コロナで途切れるかなと思いましたが、子どもたちが経験しておくことで横のつながりができるとか、楽しい経験につながるとか、それが今後につながるという話の中で、今もやり続けています。

小さな集落なので、「今日バーベキューしようよ」「花火が余っているのでみんなでやりませんか」など、誰かが呼びかけて、誰かが返信するとか、たまたま出会った人たちに声掛けて、その日に集まるという形で、大人が主体になり、子どもたちも楽しめるようなことを考えながら、横のつながりが難しい子どもたちを、大人が中心になって楽しむことで子どもたちもつながることができるので、小学校へ行く時に関係性が取れていたら、ひとりで行くのではなくて、知っている子がいる。あのお兄ちゃんやお姉ちゃんがいるという形ができると小学校の中でもひとりぼっちでないよという感覚が生まれるのではないかと思います。

それが地域でというところにもつながってくるのかなと思っております。それが居場所になるといいなと思います。

子どもたちが主体ではないので、本当に子どもたちの居場所なのかと言われると、どうなのかなと思いますが、先ほどから行事のことなどいろいろありましたが、面倒だ、面倒だと保護者が言っていて、それを子どもが聞いていたら、子どもはやる気をなくしてしまう。

保護者がやりがいを持って、面倒くさいなと思いつつも、それを抑えて、これは素晴らしいことだと子どもたちに魅力を伝えて、大人が楽しんでいる場面を見せると、子どもたちも、こんな楽しいことがあったなという思いになってくるのかなと思います。

マイナスなイメージを聞き続けると、どうしてもマイナスになり、これっきりになって終わってしまうことも多々あるのではないかと、だから保護者の責任というところが問われるところでもあるかなと思います。

スポーツ少年団のレスリングクラブで今年度は田植え体験や綿向山登山などの様々な行事を行いました。日野町ウォークラリーもしましたが、催し物をすると、クラブの子だけでなく、広く声をかけるとクラブ外の子も沢山参加いただき、運営する側は大変です

が、開催することで楽しい場所になり、子どもたちに経験させてあげられる機会を増やしてあげるといふことにもなるので、子育て世代だけではなく、地域としての役割でもあるのかなと思っています。

先ほど意見にありました田んぼのことですが、私の実家も大規模農業をしているので、高齢の方を雇用したり、レスリングクラブの子どもたちにも場所を提供したり、春には日野菜の取り放題を行い、地域や子どもたちにも還元できるようなシステムではありませんが、土に慣れ親しめる、農業に親しみを持てるような取り組みがいろいろなとこでされるようになればいいのかなと思います。

行政ばかりではなく民間の人たちが、仕事も大変ですが、どこか地域に貢献できるようなところがあればと思います。一人ひとりの努力ではないのですが、地域として、子どもたちのために、ゆくゆくは自分たちもお世話になるのだからと思い、活動できるといいかなと思います。

### ○委員長

ありがとうございます。確かに大人が思っていることは子どもに伝わりますよというのはすごく感じています。今回の公民館ワークショップでも何度か聞いた話ですが、大人が日野町や集落のことを悪く言う、田舎だとか、こんなところに住むべきではないなどと言っていたら、それは当然、子どもに伝わるという話が多く出ています。大人が言動や行動を変えないと、子どもたちにはネガティブな伝わり方がするのかなと、今のお話を聞いて思いました。

### ○委員

暮らしやすさ、住みやすさの部分ですが、私は移住者ですので、その視点から今まで出ていなかったことを発言させていただきます。

日野町は、自治会費がすごく高いのです。高いところは月 9,000 円から、最低でも 3,000 円くらいのところほとんどです。私の集落は 3,500 円ですが綿向神社の近くは神社活動がすごく盛んで 5,000 円以上が普通なのです。都会に住んでいる人から見たら信じられない金額ですが、日野町の人はそのあたり前だと思われています。

実家に三世帯とか二世帯で住んでいる人は、自分たちは払わないのでそういう意識がありませんが、私は移住者で、来た時にびっくりしたのが自治会費です。水道代も高いのです。

日野町はなぜ移住者が増えないのか、若い人に来てほしいと言われているけど今のままでは増えません。私は移住について相談を受けることがありますが、最初に伝えるのは自治会費が高いということです。田舎暮らしがしたいとだいたい言うけど、みんなが考えているほどいい事ばかりではないと。移住を考えておられる方は、自然豊かなところで暮らしたい、田んぼもしたいと思われ来られますが、お金はあまり無く、自営の方も多いため、自治会費が高い場所を選んでしまうと大変なことになります。

子どもがいなくて、仕事をしていないという理由では通らないことも多いから、よく

考えて移住してくださいということを私は最初に言っています。

それ以外は、本当に日野町はいいところだと言っています。

負担の部分では、「行事」と「役」も含めて、私も面倒くさいことに意義があると思っています。移住者ですが、夫も含めて自治会活動にはかなり顔を出しています。子どもも連れて行き一生懸命やっています。ただ、私は一世帯で住んでいて、祖父母はいません。

「役」などは、基本的に祖父母がいる前提なので、夜中の会議や朝5時から消防団の練習など、当り前のようにされています。夫婦2人で子育てしている立場から言うと、出られない時間もあるので、考えなければならぬのではないかと思います。

神社の役は60代以降の人がするものだったのが、高齢化が進んでいて50代がやるようになりました。夫が50歳ですが、下の子どもは2歳で、本当は子どもが巣立ってから務める「役」なのに、どんどん回ってくるようになっていきます。

60代、70代の方は、一度務めが終われば何もしてくれない。自分たちで変えようと思って動いても、文句を言われて結局何もできない。10年、20年経ったら変わるかも知れませんが、そうなった時には遅い。今はそういう現状にあると思います。

居場所づくりについて、私は特に思うのですが、地域で居場所づくりをする移住者はすごく多い印象があります。あと、移住者でなくても、もともとの町民で活動をされている方もほかの地域と比べて多い方だと思いました。

不登校に関する選択肢に関しても、役場主体のものはすごく少ないと思うし、幼稚園や保育園の不登園に関しての対応というのは何もないというのが現状かなと思っています。

私もそうですが、自分の家や庭を開放してイベントするなど、移住者同士では居場所づくりをやっているの、私自身はあまり困ったことがないです。

「川」に関しては、日野川へ行ったり、日野川エコスクールというイベントに子どもと一緒に遊びに行ったりしているので、そんなに困ったことはないです。最近では鎌掛で「しゃくなげ溪ウォーククラブ」も始まりました。自然を使った活動ができる場所をみんなで作っていったらいいなと思っています。

## ○委員長

ありがとうございます。いろんな住民さんがおられる中で、違う視点からしか見えない部分もあると思うので、そこも大事にしていきたいと思っています。

## ○委員

私の地域では地域行事が多く残っています。

地藏盆などは少子化で子どもが減っているので、子どもだけでは成り立たなくて、保護者も参加し、手伝うというのが絶対です。

昔と違い両親が働いている家庭がほとんどですので、行事を継いでいくというのが難しい。継続と簡素化の話し合いを何回もされる中で、コロナも重なり少し簡素化できたところもあります。面倒な行事ではありますが、保護者としては繋いでいきたいと思いますが、どうしても面倒な気持ちもあり、子どもにつないでいきたいけれども、どういうふう

に繋げて行ければいいかと思います。

簡素化できるところは簡素化して、やらないといけないことは繋いでいくという形でいけたらいいなと思っています。決して止めたわけではないということを上世代の方にも知ってほしいし、話し合う機会も必要ですが、話し合う機会もないのが現状です。

それは居場所にも関わってきますが、公民館などで子どもたちのために何か楽しいことをと思い実施してくださるのはすごくありがたいです。

公民館ワークショップに参加させてもらった時に、地区で活動される「おうけいふえす」という60代位の好き寄りグループの方と同じテーブルになりましたが、子どもたちの行事を考える時、自分たちが楽しみたいことをしていると言っておられたのがすごく印象的でした。子どもが楽しむには保護者も運営する側も楽しくないとだめだと言ってくださり、なるほどと思いました。

普通の行事に行くと、子どもたちが楽しんでいてよかったですと思いますが、「おうけいふえす」が企画している行事に行くと、確かに保護者も楽しかったなと思えるのです。

保護者が楽しめる場所、保護者の居場所にもなっていて、子どもも楽しめる場所になっているのではないかと思います。先ほど話でありました田んぼでも、高齢者の方が集われているところに子どもたちも集え、大人が楽しんでいるところを見せてあげればと思います。子どものためだけに頑張っているというよりは、自分も楽しめる場所があったらいいなと思いました。

子育ての中で、自分の得意なことは教えられますが、不得意なところは教えられなくて、偏ってしまうのではないかと。色々な行事に参加して、子どもの得意なこと、不得意なところを自分でも気づかせてあげるというのを大切にしたいと思います。

この行事には自分は気が進まないなという時でも、子どもはもしかしたらこれで才能を発揮するかも知れないとか、興味を持ったりすることもあると思います。好き寄りの方が楽ではありますが、様々な考え方がある中で、私は子どもだけというよりは多世代が集まったらいいなと思いました。

## ○委員長

異世代交流とか、少なくとも同じ地域であの子は誰ということにならないようにはしたいね、という話が公民館ワークショップでも出ていました。ありがとうございました。

大変なことでも地域集落として大事なことはあり、いかに大変な中で落としどころを見つけていくか、みたいなことですかね。

私は自営業を立ち上げた時から心がけていることがあり、自転車の利用促進の仕事をしていますが、自転車に興味でも何でもないので。今も趣味だとは決して思っていますが「ビワイチ」の推進の講演をさせていただくこともあります。

仕事として決めていることは、何故この人たちはこんなに自転車に楽しく乗っているのだろうと思ったので、その人たちがなんで楽しいのかを知って、そこを一緒に楽しもうとすると、私には異分野だったのですが、こういったことを楽しいと思ってやっておられ

るのだなというのがわかると仕事のモチベーションが保て、いい仕事ができるような気がしています。いかに楽しくしていくかとか、しんどいと思っていると伝わってしまうし、そういったところを考えなければならないなという気がしました。

運営や企画をする中で、いかに大変にならないように工夫すればよいのかという話をしていましたが、今日お話を聞くまでそういう話になると思ってなかったもので、継続できるように向けられるのかという話は大事だと思いました。あと、興味・関心、世代など、分断化していつているので、みんなで楽しめるきっかけをどうつくっていくのかというのも、大きな問題として横たわっているなと思いました。ありがとうございました。

~~~~~

○委員長

今後のスケジュールおよびすすめ方についてお話ししたいと思います。今後のスケジュールですが、今回は保育所・幼稚園の先生方へのワークショップの結果を話させていただきますが、さらにその次の話です。

様々な議論をどうして行けばよいのか、私は今すごく悩んでいて、そこで「全国事例調査」をしようと思っています。これは幼稚園・保育園の在り方もそうですが、子育て環境を考える時に地域の行事ごとをいかに続けられるかを工夫しているところが絶対あると思うので、そういったところを探してきて皆さんと話し合うということが、私にできる仕事なのかと思っています。

でなければ、情報を取りまとめて、悩みと課題と問題点はどの辺にあるのかは簡単に見えてきても、答えが見つからないのでは何にもなりませんので、そういう期間を4月以降にやりたいと思っています。

事務局と相談しながらですが、我々がやろうとしていることをワークショップに参加していただいた委員には、言葉にならないところで通じた部分があると思います。ワークショップに集まった人の雰囲気とか空気感とか、そういったところはあると思うので、事例調査も、日程を合わせるのは難しいかも知れませんが、スケジュールが合えば来ていただければいいなと思っています。

その方が、懇話会全員がいろいろなことを知り、どうしていこうかということ悩んで考えていく場にできると思います。

また後日になりますが、事例を探していますという話をした時に、ぜひ見に行った方がいいよという情報がありましたら、ご紹介の方よろしく願いいたします。

事例調査したうえで、懇話会で話し合っ、どんなアイデアがありそうなのか、使えそうなのかというところを、皆さんは日野に住まれている方なので、他市町で良い事例があっても日野町ではできないという話も絶対にあるので、皆さんと意見交換をしながらやりたいというのが私の思いでございます。

時間も迫ってまいりました。その他、皆様から何かございますか。

(なし)

~~~~~  
では、今後の予定について、事務局からお願いしてよろしいでしょうか。

### ○子ども支援課長

ありがとうございます。次回のご案内をお手元にお配りさせていただきました。

2月21日(火)13時30分からの予定で、場所も今日と同じ場所で行いたいと考えております。皆さん、ご都合を合わせていただき、ご参加くださいますよう、よろしくお願いたします。

第4回懇話会では教職員・保育士へのワークショップ結果と今年度全体の振り返りをしていただき、今年度の中間的な総括ということで、町の様々な機関に報告させていただく予定をしております。

2月24日(金)の教育委員会に町長からいろいろ提案事項がございます。今回は幼児教育保育の在り方検討懇話会での中間報告をテーマにすると決めていただいておりますので、その場で佐々木会長にもご参加いただき、教育委員さんに進捗状況を説明いただく予定をしております。

それと子ども子育て会議を今年度中に開催予定をしていますが、その委員さん方にもこの会の進捗状況を報告させていただこうと思っております。

なお、日野町議会にも3月議会の後半に、保護者ワークショップ、公民館ワークショップ、保育者ワークショップなどを終えた状況と来年度の計画、スケジュールを報告させていただきたいと思っております。

来年度の話も皆さんからご意見をいただき進めて行きたいと考えております。

### ○委員長

ありがとうございました。ほかに意見質問がなければ、これにて閉会したいと思います。

次回の報告でも申し上げますが、本当に保育所・幼稚園の先生方の置かれている大変さというのをすごく感じております。勤続30年を超える方から昨年4月に入られて現場で頑張っておられる方、パートでお世話になっている方から、日々の保育に喜びもあるのですけれども、すごくつらい中で勤務されているというお話をたくさん伺いました。

なるべくその思いを伝えられるようにとりまとめをしたいと思っておりますので、次回もよろしくお願いたします。

本日もお時間いただきまして、ありがとうございました。

(閉会)